

孔子の里「論語教室」

▶武田耕一先生(写真前段中央と受講生のみなさん)



論語に親しんで、人生訓を見つけませんか？

公益財団法人 孔子の里「論語教室」は、毎月第1土曜日、東原庫舎で15時30分～17時まで行われています。

論語教室は論語に楽しく親しんでもらうことをモットーに、中国文化を研究されている武田耕一先生が、漢文の読み方や孔子が生きた時代背景などユーモアあふれる語り口で授業を行います。

現在の受講生は20人。市内をはじめ福岡県や長崎県など市外からの生徒も多く、「楽しく論語を学べるだけでなく、歴史も知ることができてこれからの人生のヒントになればと思います。先生の人柄も魅力の一つです」と教室の魅力を話していました。

武田先生は「今年は論語日めくりカレンダーを教材に、授業を進める予定です。論語は難解で、いくつかの解釈があります。自分が好きな言葉、人生訓を見つけて、気楽な気持ちで論語に触れてほしい」と話し、新規の受講生にも親しみやすい教室を目指しています。

問 公益財団法人 孔子の里 ☎75-5112

ふ・れ・あ・い・ひ・ろ

●連載25● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

志田林三郎とクレランド金メダル

多久市先覚者資料館では、日本の電気工学の祖・志田林三郎（東多久町別府出身、1855～1892）を常設展で紹介しています。その展示コーナーでひととき目をひくのが、クレランド金メダルです。これは、グラスゴー大学におけるその年の最優秀論文に贈られるもので、林三郎が留学中に取り組んだ「帯磁率に関する研究」という論文がこの栄誉ある賞を受けました。

林三郎は明治12年（1878）に工部大学校を首席で卒業した後、英国グラスゴー大学に留学し、世界に冠たる物理学者ケルビン卿のもとで学びました。グラスゴー大学にはわずか1年ほどしかいなかったのですが、懸命に学び、ケルビン卿がのちに「ベストステUDENTだった」と語るほどでした。



▲クレランド金メダル
(多久市郷土資料館蔵)

帰国後、林三郎は技術官僚として、教育者として、そして電気工学者として大活躍し、36歳という若さでこの世を去りました。

多久市郷土資料館・歴史民俗資料館・先覚者資料館

開館時間 / 9時～16時 入館料 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

川柳

《多久市川柳会 互選》

出発の子供にエール送る朝 古賀ちひろ
穏かな人にも潜む活断層 松下 修
幸せと感じていると幸せだ 古井のぶこ
健康の貯えしたい高齢者 東島すみこ
退職の花束愚痴はこぼすまい 田代まつこ

俳句

《あざみ句会 互選》

春逝くや生家のそばに永らへり 田中あつ子
声かけて声かけられて春の駅 光野 正子
げんげ田に鋤込まれゆく日の匂ひ 中嶋 清子
春の雷道なき空を踏まへ来る 武富りつ子
鶯を裏に表に窓磨く 大石ひろ女

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

亡夫植えし山の椿の繁り居て 田淵ミチ子
ぽっこり落ちる花に魅せらる 浦野 嘉恵
母逝きて両親の無き吾となりぬ 浦野 嘉恵
古稀すぎし日々これから生きる 梶原恵美子
やぶ蘭のうす紫のやさしさよ 梶原恵美子
大病を患いし夫近頃は 梶原恵美子
亭主閑白どこへか失せる 福島那智子
老後には「幸せになる」の占ひを 本村 則子
信じてをれど何時から老後

市民文芸